

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071400240		
法人名	医療法人 恵友会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ガーデンライフ		
所在地	和歌山県海南市船尾265-8		
自己評価作成日	平成27年6月5日	評価結果市町村受理日	平成27年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣には幼稚園や小学校があり子供たちの賑やかな声が聞こえてくる。近くには市場や飲食店がある。母体が医療法人であり病院や老人保健施設が併設しており、24時間医療との連携が確保されている。地域で活躍されているボランティアさんの協力を得て地域の公民館主催の文化祭に毎年入居者様の作品を出展させて頂いている。また、地域学生の体験学習を受け入れたりと地域との交流も継続している。屋上には自慢の菜園があり、その時の四季折々の野菜が食卓を飾ります。入居者様の重度化が進んでいますが、その人らしく、それぞれの生活リズムで過ごしています。家族様の協力を得て、一緒に花見や遠足、所外での食事会など楽しく年間を通じて行っています。市や他の事業所とも協力し合い地域の認知症の啓発にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人の病院に隣接しており、緊急時には医師や看護師がすぐに駆けつけられる体制にある為、利用者や家族は安心して生活を送ることができる。ボランティアの方たちの協力が多くあり、屋上でガーデンサポーターの方たちが月2回、菜園作りの応援をしてくれており、そこで収穫された野菜が食卓に並ぶことで会話が弾んでいる。また、お茶会や押し花教室がボランティアの方たちの来訪で行われており、作成された作品を地域の文化祭に出展している。地域の中学生在が体験学習で訪れるなど、地域との関わりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の他に『のんびり・ゆっくり○(まあく) ゆこう』の独自の理念を作り、入居者様には日々 住み慣れた、又、知っている地域の中で安心してゆったりと心穏やかに過ごして頂けるよう支援に努めている。	職員たちが事業所の独自の理念を作り上げ、常に職員と利用者が一つの輪になって利用者に寄り添うケアを行っている。また法人より「恵友人の心得」手帳が配布されており理念や誓い等を毎日唱和し理念を具体化していくことを意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	重度化が進んでいるが、地域のボランティアの方や婦人会の方々の協力を得て毎年公民館で行われている文化祭に出展させて頂いている。地域の学生の体験学習の受け入れなど積極的に取り組んでいる。	地域のボランティアの方が来問し、お茶会や押し花教室が行われている。作成された作品は地域の漆器まつり等に毎年出展している。また、自治会の範囲が国道を隔てた地域になるため加入はしておらず、近隣の自治会加入の検討をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の高齢介護課を始め地域の事業者同士で『認知症サポーター養成講座』の開催に努めている。『認知症になっても地域で安心して暮らせる街作り』や認知症サロン・カフェ作りを目指している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催、家族様や地域の代表の方、市の職員など参加して頂き日々の暮らしぶりや行事、事故や苦情、評価への取り組みを報告。委員様には意見や要望、提案を頂いている。この4月よりサービス付き高齢者向け住宅も参加している。	2ヶ月に一度同法人のグループホームや高齢者住宅と合同で開催しており、市高齢介護課や市社協の職員、家族、地域の代表などが参加している。家族からボランティア団体や介護保険改正について質問が出されるなど、活発に意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	権利擁護や生活保護の方が居ており社協や市との連携を取り合っている。市の高齢介護課とは事業所の実情を相談するなど協力関係を築いている。	生活保護や権利擁護のサービスを利用して入居されているため担当者が定期的に事業所を訪問しており、今後は成年後見制度の必要性について家族も交えて話し合うなど協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は鍵をかけず出入り自由であった。入居者様の認知力の低下を初め高齢の方も多く下肢筋力も低下している。時間を決めて鍵を開けてみたが、帰って来れず警察のお世話になったこともあり、安全・感染対策に家族様に承諾を得ている。施錠が身体拘束であることを職員は認識している。	事業所は国道沿いの2階にあり、安全面を考え家族の了解を得て玄関の施錠をしている。そのことが身体拘束に当たることは十分に職員は理解している。また身体拘束については法人の研修に参加し伝達講習を行うなど身体拘束をしないケアに努めている。	安全面を考慮し、やむを得ず施錠をしなければならない場合は、その代替えとして屋上での日光浴や散歩に出かける回数を増やすなど利用者が抑圧感を招かないような対応を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いを始め入居者様を尊重したケアを目指し、職員同士が注意し合えるように日々努めている。研修会に参加し内容をフィードバックし職員が1人1人認識するよう意識付けしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居されている利用者様が権利擁護を利用されている。年々内容も少しづつ変わってきているので職員同士で勉強・理解を深めていくように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設当初と変わらず口頭・文章で説明をさせて頂いている。また、確認を行い家族様が納得されたらサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・担当を設けている。家族様とは日頃よりコミュニケーションを図り、意見や要望を出して頂ける雰囲気作りに努めている	毎月の利用料の支払いは事業所に持参するようお願いしており、家族と会う機会を持っている。家族が訪問された時は必ず、管理者や職員から声をかけるなど積極的に関わりを持つ様にしている。家族から「食事時の見守りが少ないのではないか」という意見があり、業務の見直しを行い改善する等、意見を運営に反映させている。	
11	(7)	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員ミーティングを行っている。朝の申し送り時に情報の伝達や意見交換を行っている。不参加の職員には伝達ノートがあり目を通してもらっている。また、法人の理念を唱和し職員1人1人に意識付けを行なっている。	月に1度お茶を飲みながら会議を行う等、話しやすい雰囲気を作っている。また、職員からは会議以外にも日々のケア等において「環境整備等」の提案があり、出された意見や提案を運営に反映させている。また来月には個別面談を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ライフワークバランスを取り入れてあり職場環境の改善に努めているが、給与水準などパート社員が多い中、賃金見直しなど力を入れてもらえるように働き掛ける必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象に院内・院外の研修への参加する機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やキャラバンメイトの啓発などに参加。同業者との交流・情報交換を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはその方の自宅や受けているサービス事業所に足を運び直接本人様にお会いし話をしながらその方の重いなど聞くようにしている。不安にならないように初期には事前にホームに足を運んでもらい雰囲気や顔を覚えて頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前には事業所の見学や面談を行い不安や要望をお聞きしている。入居後も近況報告や支援の方向性などその方にとって何がいいのかを家族様と一緒に考えケアに生かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の『その時』は在宅介護が限界になり介護負担の軽減のことが多い。本人様を始め家族様とも話をしながら想いを探り対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度化が進んでいく中、1人1人の出来ることに目を向けるように心掛けている。また、顔を見たり、傍に行き手を握ったり居るだけで安心して頂ける関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払いなどで月1回は来所して頂ける機会を設けている。必要に応じて電話で報告・相談を行っている。行事の参加などは前もって連絡して参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ馴染みの所へ行けるように支援に努めているがお互い高齢という事もあり疎遠になりつつある。	利用者と買い物に出かけたときには自宅の近くを通ったり、手紙や電話を掛けるなどの支援を行っている。墓参りや馴染みの店へ買い物に出掛けるときには家族の協力を得るなど、人や場所の関係が途切れないように支援している。また、法人のデイケアを利用している知人が来問することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の邪魔をしないように職員は見守っているが、入居者様の重度化が進み話が合わない、耳が遠くて聞こえない、など職員が間に入り対応している。また、1人になりたい時には、本人様の意向を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族様に運営推進会議の委員様として協力して頂いている。今後、グリーフケアにも力を入れ家族様の悲しみが少しでも和らげられるように努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居当初、入居後も日々の暮らしを支援していく中で思いを聞くように努めている。重度化が進んでいるので、自分から想いを言えない困難な場合は、職員がその人の想いを考えたり家族様に意向を聞き本人様本位のものかどうか見極めるように努めている。	入居時に本人や家族から話を聞くようにしているが、日々の暮らしの中から職員が一人ひとりの思いや意向に関心を払い、把握するように努めている。また、意思疎通が困難な場合は、家族と話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにより本人様・家族様・担当ケアマネより情報を得ている。入居後も引き続いて、家族様や本人様にお聞きして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度化が進んできているので、1人1人の状況を把握し無理なく、今持っている力を発揮して頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が生じたときには、部屋担当者や関連スタッフと話し合い、家族様に説明、意見や意向を聞いている。本人本位の支援を重視した介護計画作成に努めている。	毎月ケアカンファレンスを行い作成している。また、一人ひとり定期的にモニタリングを行い必要に応じて見直しを行っている。その際、医師、看護師、理学療法士などからも意見やアイデアをもらい現状に即した介護計画を作成して。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々の生活記録に記入、介護計画の評価は各担当者が担当し適宜に入居者様のカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している病院の付き添いや、他の病院（整形外科・歯科）などの付き添いも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活躍されている押し花の先生、お茶の先生方にボランティアに来て頂いている。終了後は一緒にお茶を飲んだり、時にはゲームやカラオケ・折り紙などで交流、楽しい時間を過ごさせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しているので24時間連携が確保されている。入居者様の殆どの方が併設している病院の医師であり、週4日訪問診療を受けている。また、家族様の要望があれば他の病院への紹介や診察の同行などさせて頂いている。	かかりつけ医の選定は本人や家族に任せているが、同法人内に病院があり全利用者が主治医としている。婦人科や整形、眼科などは家族の協力を得て受診をしており、お互いに口頭で情報を共有している。薬局には職員が行き、薬剤師より薬の説明を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院を初め、老健施設の看護師との協力体制が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室があり、病院との連携も確保出来ている。情報交換や共有も出来る為、入退院時の支援もスムーズに行え家族様に理解して頂いている。また、他病院の連携室との交流もあり、空き情報や情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『看取りの指針』について説明させて頂いている。入居者様の重度化が進んでいるのでその都度、変化がある時など家族様と話し合い、意向を聞いている。また、状態により医師に相談・話し合いに入ってもらっている。	入居時に「看取りの指針」について説明している。本人、家族はその時々に応じて気持ちに変化することもあるので、状態が変化したときには家族、主治医、看護師、職員等チームで方針を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は定期的に行っていたが、今は出来ない。機会を見つけて訓練を行い、慌てずに緊急時に対応出来るように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、法人全体の防災訓練に歩ける入居者様と参加。研修などにも参加している。法人全体の防災マニュアルがあるが、事業所独自のマニュアルもあり、訓練に努めている。	年2回法人全体の消防訓練が消防署立ち合いのもと開催され、一部の利用者と一緒に参加し消火器や散水ホースの使い方の訓練を受けている。また、事業所独自のマニュアルを作成し、災害に備えている。備蓄は事業所には水、法人には食料や毛布、医療品が準備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重度化により言葉の理解が難しくなっているが、その人1人ひとりに合わせたトーンやゆっくりと分かりやすい言葉掛けを心掛けている。地方出身の方にはその方の方言を使用したり、相手の顔・目を見て話したり、手を握ったり、背中をなげたりと安心して頂けるように努めている。	呼称は基本、姓で呼ぶようにしているが利用者によっては下の名前で呼ぶ方が分かりやすい場合もある為、その人にあった対応をしている。また、職員は普段から利用者が理解しやすい言葉で話かけ、相手を思いやる気持ちをもって接するように心掛けている。個人情報の管理については事務所の書庫で管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意志で決めてもらうように支援しているが、難しくなっている。その方の立場にたち職員同士で話し合ったり、家族様の協力を得ながら決めさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日1日を楽しく穏やかに過ごして頂くために、事故や入居者様同士のトラブルに気を配りながらその人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選んだ服を着て頂いている。服装が合わない時には、さり気なく声掛け一緒に選んだりしている。介助の方にはどちらが良いか選んでもらい着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	数名の方が職員と一緒に食事の用意を行う時があります。献立も何を食べたいか、何が好きか聞き食卓へ。入居者様の状態に応じて細かく・刻んだりトロミをつけたり、嚥下状態でミキサー食を提供、また病院の栄養士さんに相談、アドバイスを頂くときもある。	テーブル拭きや下膳など一人ひとりが出来ることを行っている。屋上の菜園から利用者が野菜を収穫し、食卓に並ぶこともある。お誕生日の食事会にはテーブルクロスで雰囲気を変える等、食事が楽しめる工夫を行っている。また、食事制限の必要な利用者には、法人の管理栄養士より指導を受け、その方にあった食事を提供することができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に付けて管理している。食事やおやつ以外にも飲みたい時に飲んで頂いたり、水分補給を促している。食欲不振時には本人様に聞き、「食事」とらわれず食べたい物を食べて頂いたり、他の物を提供 食べて頂くように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には声掛けや時には見守りを行っている。介助の方には声掛けし一緒に行っている。週2回 洗浄剤で義歯を消毒している。噛み合わせや義歯が合っていない時には訪問歯科医に連絡、治療をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて個々の排泄パターンを把握、ソワソワしていたり、落ち着きがない人の行動に目を配り観察・適宜にトイレ誘導を行っている。夜間、紙パンツやPトイレを使用している方も日中はトイレ誘導、介助し使用している。	その人の排泄パターンや行動を把握し、随時誘導を行っている。夜間ポータブルトイレを使用する方もいるができるだけトイレで排泄ができるように支援している。また、トイレ誘導時の声掛けは、他の利用者に分からないように耳元で声をかけるなどさりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	はちみつ湯や冷たい牛乳、ヨーグルト、水分などたくさん取ってもらうように提供したり、食物繊維の多い食べ物を摂取できるように献立に取り入れる工夫をしている。個々の排便状態を記録、時には医師に相談・投薬コントロールする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿うように好きな時間に入って頂きたいのですが、過度の介助の方には曜日を決めて入ってもらっています。軽度の方には声掛けを行い本人様の良い時に入ってもらっています。また、入る・入らないは本人様の意志に沿って支援している。	週に2回(夏場は3回)入浴を行っているが重度の方はシャワー浴になっているため同法人の老健の機械浴での入浴を検討している。時折入浴を拒む人がいるが時間や声掛けする職員を変えるなどその人に合った支援を行っている。また季節感を取り入れる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の目安はあるが、起きたい時に起きてもらい、寝たい時に寝てもらっている。日中でも本人様の希望であれば居室にて休んで頂いている。また、本人様の体調を見て休む事を勧める事もある。出来るだけ体を動かしてもらい安眠にもつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理、内容や副作用の説明書はすぐに見られる場所に置いてあり、すぐに確認出来るようにしている。訪問診察時には入居者様の体調や様子を報告。医師に相談し投薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化が進んできて段々と難しくなっています。その方の得意なことや好きなことが出来るように職員がサポートしながら、楽しんで頂けるように支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知力や身体機能の低下により、毎日とはいかないが、時々、四季の移り変わりを楽しみながら散歩に出掛けたりしている。家族様の協力の一部の方は外出が出来ている。今後、家族様の協力を得ながら外出の機会を増やしていきたい。	屋上の菜園で野菜の手入れや、水やり、日光浴、洗濯を干すなどを行っている。買い物に出掛ける時や、職員が事業所から外に出るときには利用者と一緒に掛けるように心掛けている。	屋内だけの生活は利用者、職員共にストレスがたまりやすくなるため短時間でも戸外に出掛ける回数を増やし、気分転換やストレスの発散、また五感の刺激を得られるような支援を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『お金』を持っているだけで安心されます。家族様には『紛失』するという事を理解、承諾して頂き、本人様が安心して金額を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年2回、年賀状や暑中見舞など家族様やボランティアの方々宛に送っている。居室には電話があり1人の方が家族や姉妹などにかかけ、楽しく話をされている。他の方は希望があれば事務所の電話を使ってもらいダイヤルは職員が回している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製の作りにて暖かい雰囲気が出ている。隣には幼稚園や小学校があり子供たちの賑やかな声が聞こえてきて、窓からは暖かい日差しが入ってくる。冷暖房は室内と外気の温度差に気を付け快適に過ごして頂けるように努めている。	リビングの窓からは幼稚園や小学校が見え、元気な子供たちの声が聞こえ、ローカには利用者が好きな所でくつろげるようにイスやソファが置かれ利用者が洗濯物をたたむ等している。また、季節の花や小物を飾り、季節感が感じられるよう工夫したり、食器棚が倒れてこないように地震対策や、空気清浄機を置くなど環境整備も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはどこでも休めるように椅子やソファを置いている。1人になりたい時や、気の合うもの同士が楽しい時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使っていた家具類やカーテンなど依頼するが事業所の物を使用したり、新品を購入されることが多い。ベッドの高さやタンスの場所など本人様の動きやすい配置、調整を行っている。	利用者一人ひとりに合った環境を整備し、這って移動する利用者の部屋にはジョイントマットを敷き安全に移動できるようにしている。また、テーブルやテレビ、日本人形、写真などを持ち込み利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をトイレには張り紙をして分かってもらえるようにしている。		